

06-05-19 (村岡記)

正常流量のあり方に関する環境 WG のまとめ

第 11 回環境 WG 会議でまとめた「正常流量のあり方」についての提言を記述する。

事務局説明「武庫川における正常流量について」(第 10 回環境 WG 会議 資料 - 3)の内容を理解した。(なお、青野ダムにおける不特定利水容量の詳細内容については、現時点で理解の及ばない部分がある。)同資料にある検討項目以外の観点から、以下の事項について今後検討することが必要である。

- (1) 渇水時に見られる武庫川河道内の瀬切れ、断流、溜まり水(孤立した小水域)の発生による正常な生物生息への影響が憂慮されるため、生物に対しどのような影響があるか。
この状態に対処するために配慮すべきワンド、滲筋等の整備をどのように行うべきか、またそれを河川整備計画のなかでどのように対応すべきか。
について、専門家、河川技術者等による専門技術委員会等を設置して検討すること。
- (2) 河川の低水流量を少しでも豊かにするため、下水道の処理水を河道に還元する施策を積極的に推進すること。
- (3) 河川の平常流量を長期的に確保するため、森林域の保全施策において森林の水涵養機能をより高めることに配慮すること。

なお、国交省「正常流量検討の手引き」に準拠する上記の正常流量に対する検討事項以外に、例えば、生物活動に好ましい適度の出水、停滞する流れを一掃して良好な水質環境を取り戻すような流量、あるいは適正な土砂の供給に必要な掃流力を持つ流れなど、河道で流れが持つ本来の自然機能の維持に必要な流量についての検討も、別途必要と考えている。

以 上